

## フォレスト・インドネシア・コンファレンス & 最近の REDD+関係の動き

### ■ フォレスト・インドネシア・コンファレンス～食糧、繊維、燃料及び REDD の需要を満たすための将来の代替案

国際森林年のイベントとして、9月27日にジャカルタで標記会議が CIFOR 主催、ノルウェー大使館、オーストラリア政府、EU、英国気候変動ユニット、ジャカルタ・ポスト等多くのパートナーの共催により開催されました。この会議は、持続的な森林管理に向けてビジネス界を含む利害関係者が協力して取り組むために意見交換を行うことを目的として開催され、900人もの参加登録がありました。

開会式では、インドネシアのユドヨノ大統領が、経済成長と環境保全のバランスをとりながら持続的森林管理を実現していく必要があるという趣旨のスピーチを行いました。また、5月に発令したモラトリアムに言及し、持続的森林管理に関連して土地利用政策を見直す必要があること、REDD+国家戦略の策定及び REDD 庁の設立に取り組んでいるが、これにはグローバルファンドが必要であること、COP17に向けてより多くの行動を起こしていかなければならないことを唱えました。

開会式の後には分科会が開催され、行政、企業、国際パートナー、NGO の代表が話題提供者となり、パネルディスカッションが実施されました。筆者が参加した分科会の要点は次のとおりです。

#### < 将来の低炭素への移行における REDD+ >

- UKP4、ヘル次官：グリーンインベストメントについては民間セクターの参加促進が必要である。境界設定、土地所有、慣習的権利等の観点から土地利用計画を検討すること、また、生態系回復コンセッション等の法制度を整備することが必要である。
- インドネシア商工会議所、環境及び気候変動担当副議長：民間セクターにとって、REDD+の可能性を評価するのは非常に困難である。経済成長と環境保全の両立は必須であるが、このコンセプトフレームを REDD の枠組においてどのように作るかが重要であり、政策立案者と企業の一連の協議が必要である。
- 世銀、環境経済担当者：従来の森林利用方法を変えていくためには、どのようなインセンティブや制度が必要なのかを地方、国家、国際社会の各レベルで考える必要がある。
- ザ・ネイチャー・コンサーバシー、国際森林炭素政策アドバイザー：REDD+に関連して土地利用計画が重要となるが、透明性や説明責任を果たしうる計画策定プロセスが必要である。

### ■ 国家長期森林計画<RKTN> (2011年～2030年) の普及支援

国家長期森林計画は林業省の定める計画で、土地利用や森林経営の長期的な指針のひとつとなる計画です。この計画は、本年6月林業大臣令として施行されましたが、広く普及するため、一般にわかりやすい計画書の印刷を、当プロジェクトが支援しました。

計画によれば、現在の森林区域面積は131百万ヘクタールとなっていますが、そのうち41百万ヘクタールが無立木地です。今後、これらの森林を、保全対象地域、天然林及び泥炭地保護対象地域、復旧対象地域、大規模利用対象地域、小規模利用対象地域、森林外利用地域に分けて管理を行い、農

地などに転用される森林を差し引いて、2030年時点で、現在の森林区域の約85%に当たる112百万ヘクタールの森林区域を維持していくことにしています。

同計画はこれ以外にも、森林復旧、木材製品生産、特用林産物生産の長期的目標などを定めています。

## ■ 新 REDD+タスクフォースの設置

インドネシアでは REDD+の立案を行う関係省次官クラスからなる省庁横断的なタスクフォースが設置されていましたが、その設置期限が6月末を持って切れ、一時空白となっていました。その後、2011年9月8日付けで大統領令が發布され、新たなタスクフォースが設置されました。新たに設置されたタスクフォースのポイントは次のとおりです。

- (1) 名称が「REDD+機関設立準備タスクフォース」となった
- (2) タスクフォースメンバーとして新たに農業省、エネルギー・鉱物資源省が加わった
- (3) 事務局長にアグス・プルノモ国家気候変動協議会 (DNPI) 事務局長が就任 (議長はこれまでどおり、クントロ UKP4 長官が留任)
- (4) 業務は REDD+機関の設立準備、国家 REDD+戦略の策定調整、REDD+資金メカニズムの準備、REDD+MRV 機関の設立準備、パイロット州活動、モラトリアム実施状況の監視など
- (5) タスクフォースの任期は2012年12月末まで

## ■ 国家 REDD+戦略案の公開

昨年来検討されてきた国家 REDD+戦略の草案が、UKP4 のウェブサイトでは8月17日から30日間のパブリックコメントにかけられました。今後、コメントを踏まえて必要な修正を行った後に、決定される運びになる予定です。

この戦略案では、インドネシア REDD+のビジョンを「森林及び泥炭地の持続的管理」と位置づけ、短期目標 (2011-2013) を、2020年までの GHG ガス削減目標 (BAU ベース 26% - 41%) 達成のための森林管理ガバナンス確立、中期目標 (2013 - 2020) を GHG ガス削減目標に向けた森林管理の実施、長期目標 (2020 - 2030) を排出源から吸収源への森林の役割転換と位置づけています。また、REDD+機関や MRV 機関など REDD+実施のための制度設計についても記述しています。

### 荒廃地回復プロジェクトの HP が開設されました！

FFORTRA 通信 No. 5 (2010年9月)でご紹介した「保護区における生態系保全のための荒廃地回復能力プロジェクト」の HP が開設されました。皆さん、ぜひ、アクセスしてみてください！

日本語版 <http://www.jica.go.jp/project/indonesia/008/index.html>

英語版 <http://www.jica.go.jp/project/english/indonesia/008/index.html>

インドネシア語版 <http://www.jica.go.jp/project/indonesian/indonesia/008/index.html>

インドネシア国家森林計画実施支援プロジェクト (FFORTRA)

Facilitating the Implementation of National Forestry Strategic Plan

インドネシア林業省 (Manggala Wanabakti) ブロック VII、6 階

TEL: 62-21-572-0218      Email: [ffortra@jica-dephut.or.id](mailto:ffortra@jica-dephut.or.id) (高原、山内)